2023 年 10 月 3 日

「冷凍食品業界における容器包装 3R 推進のための自主行動計画」

2022 年度フォローアップ調査結果

一般社団法人日本冷凍食品協会

＜はじめに＞

当協会は、2006 年（平成 18 年）3 月に策定した『冷凍食品業界における容器包装３Ｒ推進のための自主行動計画』（第一次）では、2010 年の最終年度に 2004 年度比で原単位あたり 3%削減の目標を設定し、5.8%削減を達成した。

その後、2012 年（平成 24 年）3 月に策定した『冷凍食品業界における容器包装３Ｒ推進のための第二次自主行動計画』では、2015 年度までに 2004 年度比で原単位あたり 9%削減する目標を設定し、18.9%削減と大幅に目標を上回った。

さらに 2017 年（平成 29 年）3 月に策定した『冷凍食品業界における容器包装３Ｒ推進のための第三次自主行動計画』では、2020 年度までに 2004 年度比で原単位あたり 22%削減する目標を設定し、プラスチック容器包装のリデュ―スを更にすすめているところである。

３Ｒとは、リデュース(Reduce：減量)、リユース(Reuse：再利用)、リサイクル(Recycle：再生利用)のことであるが、このうち容器包装リサイクル法の対象が一般廃棄物として家庭から排出される容器包装であり、また、冷凍食品の場合の容器包装はほとんどプラスチックであるため、調査対象は家庭用冷凍食品のプラスチック容器包装に限定している。

また、この自主行動計画では、「取組みの結果については毎年度検証し、公表する」としていることから、フォローアップ調査（2022 年度実績）について家庭用冷凍食品メーカー9 社を対象に実施した。

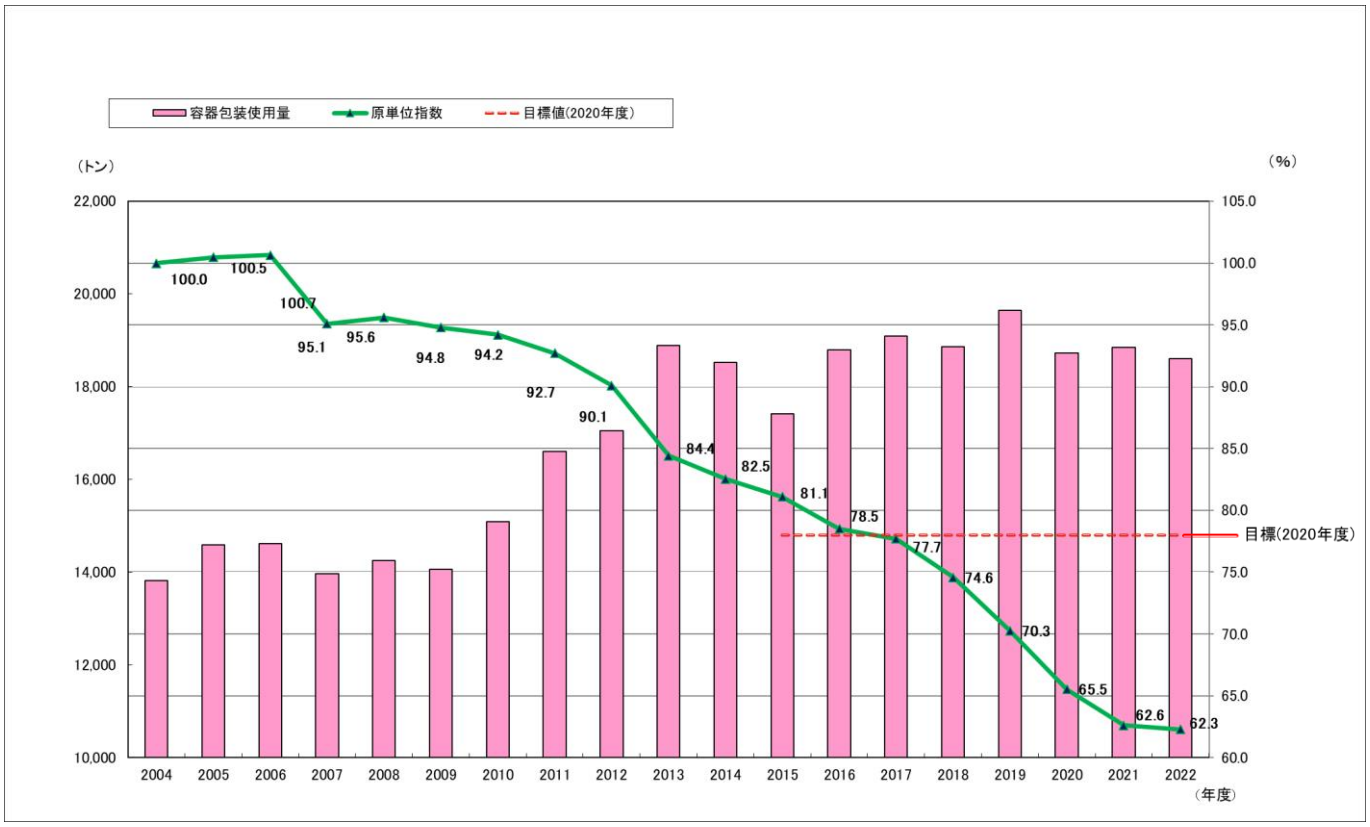
2022 年度の家庭用冷凍食品容器包装のプラスチック使用量は、2021 年のコロナ禍による家庭用需要の増大の反動により減少した。プラスチック使用量原単位（冷凍食品販売数量当たり）は、前年対比 0.3 ポイント減少し、基準年である 2004 年度比では 37.7%減少と、20 年度の目標である 22%減少を 15.7 ポイント上回った。

これは、パッケージフィルムの軽量化、トレーの削減や薄肉化、プラスチック包材の一部を紙包材に変更するなど冷凍食品メーカーのプラスチック使用量の削減努力等が要因と考えられる。

＜2022 年度フォローアップ調査結果＞

調査対象：家庭用冷凍食品を製造・販売する大手 9 社
対象商品：プラスチック製容器包装を使用した家庭用冷凍食品
指　　数：2004 年度を 100 とする
目　　標：2020 年度までに 2004 年度実績比 22%削減（原単位）
※原単位：冷凍食品販売数量当たりのプラスチック容器包装使用量

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
容器包装使用量（トン）	13,824	14,592	14,611	13,969	14,249	14,065	15,093	16,605	17,055	18,887
同 指数	100.0	105.6	105.7	101.0	103.1	101.7	109.2	120.1	123.4	136.6
製品販売量指数	100.0	105.1	105.0	106.3	107.9	107.4	115.9	129.6	136.9	161.9
原単位	**100.0**	**100.5**	**100.7**	**95.1**	**95.6**	**94.8**	**94.2**	**92.7**	**90.1**	**84.4**

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
容器包装使用量（トン）	18,526	17,414	18,796	19,095	18,862	19,649	18,728	18,847	18,607
同 指数	134.0	126.0	136.0	138.1	136.4	142.1	135.5	136.3	134.6
製品販売量指数	162.3	155.3	173.3	177.8	183.0	202.3	206.8	217.7	206.5
原単位	**82.5**	**81.1**	**78.5**	**77.7**	**74.6**	**70.3**	**65.5**	**62.6**	**62.3**

（注）・ 調査対象は、2004～2010 年度が 8 社、2011 年度及び 2012 年度が 9 社、2013 年度が 10 社、2014 年度以降が 9 社（1 社減は企業合併による）である。
・2019 年より一部個社のデータ抽出方法が変更されたため、前年度までのデータは修正。